

## 第3章 多文化共生推進に向けて

### 1 基本目標

#### 基本目標

### 「世界に開かれた豊かな人間性をはぐくむまち」の実現 ～外国人住民と共に生きるまち目黒を目指して～

これまでの相互理解による開かれた共生社会づくりの視点をさらに発展させて、多文化共生への取組や様々な交流を通して、魅力ある地域社会、外国人住民と共に生きるまちとなることを期待し、さらなる「世界に開かれた豊かな人間性をはぐくむまち」の実現を目指します。

## 2 施策目標

### 施策目標 1

## 外国人住民が地域で安心して 生活し、働くことができる環境整備

区民の定住意向が9割を常に超え、「都心に近い住宅地」「安全・安心なまち」というまちのイメージが定着してきていることは、外国人住民にとっても同様なことと予想されます。通勤等の便利さから住んでいるとしても、生活の場は目黒区となります。

外国人住民が言葉や習慣の違いを乗り越えて、地域で安心して暮らせるように、理解しやすい表現を用いた多言語による行政情報の提供や、行政窓口での対応を充実させ、外国人住民が求める支援を行っていきます。また、外国人住民が日本語を学ぶ機会を増やし、地域社会で活躍できるように支援します。

### 〔施策の展開例〕

- 医療・保険・福祉・防災等生活支援情報の提供  
外国人住民が安全・安心に暮らすために欠かせない医療・保険・福祉・防災等の情報を容易に得ることができるように、関係機関や民間事業者とも協力・連携しながら、多言語版リビングガイドの配布場所を増やす等、環境を整備します。
- 外国人住民への日本語学習支援の充実  
外国人住民の生活にまず必要なことは日本語の習得です。これまでの学習支援の継続と外国人住民の個々に応じた学習支援を実施します。
- 地域におけるボランティアの育成と活動支援  
防災語学ボランティアや国際交流協会のボランティア、外国人おもてなしボランティア等、身近な地域におけるボランティアの育成を図り、活動を支援するとともに、ボランティアをつなぐネットワークを構築します。
- 情報のユニバーサルデザイン化の推進  
外国人住民が、安全で安心な生活が送れるように、案内表示の多言語・多記号化とともに、防災アプリ等、ネット環境情報の多言語化や、SNSの活用を促進します。

## 施策目標 2

# 外国人住民の地域社会への 参画促進

区で暮らす外国人が住民の一人として地域社会に参加できるように、地域活動やボランティア活動への参加を促進していきます。

また、地域のイベントや交流事業に参加する機会を拡充していきます。

### 〔施策の展開例〕

- 外国人住民との交流事業の充実  
外国人住民が気軽に交流できる機会を充実し、お互いの文化にふれあいながらコミュニティを形成していきます。
- 地域活動やボランティア活動への参加・参画促進  
交流の機会を通じて相互に知り合えた外国人住民に、地域活動やボランティア活動への参加を呼びかけます。また、外国人住民が地域住民の一員として活動に参画することを目指します。
- 外国人留学生の地域活動参加促進  
区内にある大学の留学生に地域活動への参加を呼びかけることで、地域活動の活性化が期待でき、また、将来の就労や定住化にもつながります。



外国人の茶道体験



外国人が参加する防災セミナー

## 区民と外国人住民との共に歩む 意識の醸成

多様な価値観や文化をお互いに理解し尊重する区民意識を醸成するため、区内にある大使館や関係団体等と連携を図り、異文化理解を促す取組を強化します。また、次世代を担う子どもたち同士の交流事業を推進していきます。

### 〔施策の展開例〕

- 外国人支援の地域サポーター制度の設置  
外国人相談業務を担えるボランティアを募集し、一定の研修機会と区窓口での実務経験を通じて人材を育成し、外国人を支援する地域サポーターを設置します。
- 次世代人材育成の促進  
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、広く区民を対象としたオリンピック・パラリンピック教育活動を推進し、多文化共生社会の実現を目指した次世代の人材を育成します。
- おもてなしマインドの推進  
急増する訪日外国人観光客に対するおもてなしマインドを呼びかけ、推進します。
- 異文化理解への取組の充実  
区内の12の大使館や区内の外国人支援団体とも協力して、異文化理解を深める事業を充実していきます。



